# 中期計画

(令和4年度~令和8年度)

学校法人高水学園 令4年3月1日 理事会

## 学校法人 高水学園 中期計画

### 1 はじめに

#### (1) 策定にあたって

学校法人高水学園は,明治初年、熊毛郡高水村(現周南市)に開設された磨鍼塾を源流とし、明治 31 年 4 月に高水村塾の創立後、幾多の変遷を経て120周年余を迎えた。村塾以来一貫した建学の精神は、徳性の陶冶と教育の実践にあり、勤労を尊び生活は質素であるべきことを教育の指導理念としてきた。今後もこの建学の精神を継承してゆき、さらに広い世界観に立つ教育を実践していくつもりである。

本計画は、このような歴史と伝統を有する本学が、少子化の進展が加速化する中においても地域から信頼され選ばれる私学として持続的に発展をしていくために、安定した財政基盤を図りながら、中長期的な展望に立った明確なビジョンと実行計画を定めたものである。本学園は、本計画の目標達成にむけ総力を挙げて努力する所存である。

なお、本計画の中で使用する設置学校名等の略称は次のとおりである。

(設置学校名等)

(略称)

高水学園法人事務局

: 法人事務局

岩国短期大学

: 短期大学

高水高等学校・高水高等学校付属中学校

:高等学校・同付属中学校

(2) 計画期間

令和 4 年度(2021 年度)~令和 8 年度(2026 年度) 5 力年間

## 2 学校法人がおかれている現況

- (1) 山口県の総人口は平成 28 年の国勢調査において 140 万人の大台を割り込み、令和 4 年 3 月の時点で 134 万 2 千人となり、その後も減少が予測される。また令和 2 年 10 月時点で人口増加率(2020 年/2015 年)は全国下位 9 位、-4.39%である。
- (2) 大学等進学率(令和元年度)は全国平均 54.8%であるのに対し、山口県は 43.4%であり、全国平均よりかなり低い傾向にある。
- (3) 高校進学率(令和元年度)は全国平均98.8%であるのに対し、山口県は98.4%であり、ほぼ全国平均に近い。
- (4) 15 歳人口の動向

令和2年に公表された山口県の人口動態調査をもとに、令和2年以降の15歳 人口の推移を示す(単位:人)。

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
山口県	11,398	11,398	11,388	11,097	11,212
岩国市	1,097	1,099	1,049	1,025	1,071

## (5) 12 歳人口の動向(単位:人)

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
山口県	11,086	11,243	10,565	11,564	9,966
岩国市	1,014	1,070	983	1,009	874

(6) 高水学園学生数・生徒数の変化(各年5月1日現在のもの 単位:人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
短期大学	146	139	115	109	127
高等学校	640	649	613	580	489
中学校	86	78	69	80	86

## 3 建学の精神と学園運営の基本的考え方

(1) 建学の精神

本学園の建学の精神は、「徳性の陶冶」を源とする人格錬成である。風説、つまり 時代の変動、社会の変遷に惑わされることなく、一貫した方針を堅持する。

(2) 学園の設立目的

山間部の麓において、僻地にも関わらず、徳望を慕って遠近より学ぶ者を迎えるべ く、「磨鍼塾」と呼ばれる私塾を開いたことが源流となっている。存亡の危機に瀕 すも、再興の気運が熱し、「私立高水村塾」として創設された。創設者から語り継 がれているこの歴史を、系譜とする。

(3) 学園運営の基本的考え方

建学の精神である「徳性の陶冶」を念頭に、地域や国際貢献する人材を育成する。 それは、状況が混沌としても、解決の糸口を自らの力で掴む、才知ある人物の輩出 でもある。運営するための目的ではなく、目的を遂行するための「運営」と呼ばれ る基盤があると信じる。

#### 4 中期計画の構成

本中期計画の構成は、次のとおりである。

- 1 はじめに
  - (1) 策定にあたって (2) 計画期間
- 2 学校法人がおかれている現況
- 3 建学の精神と学園運営の基本的考え方
  - (1)建学の精神 (2)学園の設立目的 (3)学園運営の基本的考え方
- 4 中期計画の構成
- 5 各部門のビジョン(概要)
- 6 中期財政計画(策定方針と概要)

#### 5 各部門のビジョン(概要)

(1) 法人事務局

寄付行為に基づき、理事会は理事長のもとそのガバナンス機能を発揮し、また評議 員会は諮問機関としての役割を十分に果たしていく。各部門が、各々責務を自覚し たマネジメントを実現しており、学校法人として統一的・一体的なマネジメント機 能が向上している。

#### (2) 短期大学

山口東部にある唯一の保育士・幼稚園教諭を養成する短期大学である強みを生か し、さまざまな先進的な取組みを通して社会的評価が高まっている。近隣の高等学 校との高大連携協定が効を奏し、独自の奨学金制度による修学支援体制の拡充がな され、さらに社会人の積極的受け入れを行ったことから学則定員を満たしている。 地域に密着した短期大学として、子育て支援センターとしての役割も担っている。

## (3) 高水高等学校・同付属中学校

生徒の学力を向上させ、豊かな人間性を培い、多様な生徒の進路目標を達成している。学習活動、特別活動、部活動等を通して、確かな学力、豊かな人間性と健全な身体を身に付け、社会に貢献できる人物を育成している。高水村塾からの歴史と伝統を引き継ぎ、生徒、保護者、地域社会から愛され信頼される学校になっている。定員確保に努め、経営基盤の確立に向けた取り組みを進めている。

## 6 中期財政計画(策定方針と概要)

通常の「学生生徒等納付金収入」だけで、学園に求められている期待に応えるには、難易度が高い。そこで、体質を強化する枝として、外部資金の獲得にも力を注いでいる。過去、防音工事に係る空調工事の補助金を防衛省から、耐震補強工事に伴う工事の補助金を文部科学省と岩国市から得た。更に私立大学等改革総合支援事業及び私立大学経営強化集中支援事業にも着手し、経営の安定化を図っている。新学習指導要領に従い、ICT(高度情報通信機器等)を活用した探求学習が展開され、アクティブラーニング(能動的学習)も積極的に実施されている。施設・設備の充実に満足せず、指導者との協調体制も重ねて豊かなものへと導いてゆくことも方針とし、寄付金については、高水学園教育振興寄付金制度を策定し、地元の企業や諸団体及び卒業生に寄付のお願いをし、恒常的な教育環境の整備と各種奨学金制度の充実財源として活用する。

#### 【短期大学】

中期計画の策定及び実施については、短期大学運営協議会で基本方針を定め、全 教職員対象の合同研修会において SWOT (学園を取り巻く外部環境と、学園の資産 や魅力などの内部環境)の分析を行い、策定している。

人事政策については、人事評価を具体的に検討していかなければならないが、短期大学は単科であり、限りある人材力で大きく手腕を振っている。教育課程に沿った教員の担当科目の適切な配置と、事務職員の業務内容を再検討し、常に合理化を図ることとしている。

施設設備については、水道管が老朽化したことによって漏水が発生したことから 水道管の修繕工事を行った。それに伴い、屋上に設置していた高架水槽を撤去し、 新たに地上設置型水槽へ取替工事を実施した。ただし、校舎全体に敷設された水配 管自体までの修繕には至っていない。

#### 【高等学校・中学校】

人事政策については、在籍生徒数及び入学定員に見合った適正な教員数を設定した上で教員の適正配置を行い、定年退職者の再雇用を実施するとともに、人件費の 最適化を図る。

施設設備については、特別教室及び第2校舎の各階にICTの施設・設備を完了させた。また、第1校舎のトイレを洋式化した。

また、校務の効率化とペーパーレス化を推進するために教員(常勤)にタブレット端末を配付し、さらに各電子機器を学園校内でスムースに利活用できるようWiFi環境の整備を完遂する。

導入できる予算を拡充させる手段として各行政が用意する補助金を活用し、国が 学校教育に求めるICT化を躍進し、年度を追って授業改善と教育内容の高度化を 実現していく。

### 【法人部】

経費の削減については、これまでも予算編成において一定数の圧縮を掛けてきた。 教育水準の低下に及ばない範囲で、「教育研究経費」と「管理経費」を各々数%圧縮する。

又、遊休施設等を閉鎖することで、光熱水費の節減も行う。また、内部監査の実 効性から、経費の適性化を図る。

理事長の手腕は、法令や寄付行為に基づき、役割と責任をもって管理運営は確立 済であり、役員会等で実行力を発揮している。

中長期計画の策定と遂行については、経営の安定化に向けて、理事長のもと、評議員会・理事会において経営方針を定めている。

法人連絡会を設置し、計画の立案や進捗状況の確認は、定期的にその会合の場で 行われている。重鎮で構成される委員に加え、外部人員(監事等)も同席し、監査 の助けとなっている。

#### 【情報公開と危機意識】

「事業計画書」と「事業報告書」を学園のホームページで公開している。また、学園の教職員を対象に財務状況の推移について説明会を夏季に行い、その共通理解を図っている。

## 1. 学校法人高水学園 法人事務局

ているとともに活性化して

いる。

## 建学精神

#### 徳性の陶冶

## ミッション

建学の精神である「徳性の陶冶」を実現し、豊かな人間性を育むとともに「知徳体」の バランスの取れた健全な人間を育成するにあたり、理事長がリーダーシップを発揮して 理事会の運営にあたりつつ健全経営に最善の努力を図るとともに、理事長指導のもと評 議員会での意見の聴取と活性化を進める。また、中学校・高等学校・短期大学をもつ学 校法人として、各々の運営責任者と共通理解を図りつつ法人事務局が主体的に統率して マネジメント機能を発揮するよう努める。

## ビジョン(6年後の目指す姿)

- (1)外部資金の獲得に努め、経営の健全化・安定化がはかられている。
- (2)諸経費の節減に努めるとともに、経費の適正化がはかられている。
- (3) 理事長指導のもと、理事会はそのガバナンス機能が発揮され、円滑に運営されて いるとともに活性化している。

(4)諮問機関としての評議員会が、その役割を発揮し活性化している。					
ビジョン達成のための重点目標					
ビジョン	重点目標				
(1)外部資金の獲得に努め、経営の健全化・安定化がはかられている。	・国や山口県に対する補助金申請(感染症対策等の学校教育活動継続支援事業・私立高等学校等ICT教育整備推進事業・私立大学等研究設備整備費等補助金事業・私立学校情報機器整備補助金事業・女性活躍促進施設整備補助事業等)や、文部科学省に対する補助金申請(耐震補強工事に伴う補助事業・私立大学等改革総合支援事業・私立大学経営強化集中支援事業等)を実施し、経営財源の健全化・安定化をはかる。 ・高水学園教育振興寄付金制度を策定し、地元の企業や諸団体および卒業生への寄付の依頼をはかることで、恒常的な教育環境の整備と各種奨学金制度の充実財源として活用する。				
(2)諸経費の削減に努めるとともに、経費の適正化がはかられている。	・予算編成において10%削減を継続している。教育研究経費や管理経費については、教育研究に支障をきたさぬ範囲で各々5%削減を目標に実現をはかる。 ・使用しない教室には施錠し、無人のトイレには消灯を心がけるなど光熱費の節減を行う。 ・内部監査を適宜行い、経費の適正化をはかる。				
(3)理事長指導のもと、理事	・法令や寄付行為に基づき、理事長のリーダーシップのも				

会はそのガバナンス機能が | と理事会のガバナンスが適切に機能している。中長期計画 発揮され、円滑に運営され | の立案や進捗状況の確認は、プロジェクトチーム(法人連

|絡会)を設置して毎月会議のなかで検討している。

## 2. 岩国短期大学

## 建学精神

## 建学の精神「楽学」

「楽学」は、「学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦た楽しからずや。」(『論語』第一章学而編)から由来し、「学んだことを常に繰り返していくと、やがて自分のものとなり、自由に働きを表すようになる」という意味であり、絶えざる教育の実践と人格の練成を重視する。

## マー・スミッション ニー・

## 徳性の陶冶

- ・徳性の陶冶を重んじ、人間性を練り鍛える、豊かな人間形成を図る。
- ・地域に生きて働く人材の養成に努める。

## ビジョン(6年後の目指す姿)

- (1)授業改善が進み教育の質が向上し、ゆとりと充実をめざす短期大学になっている。
- (2) ICTを活用し、21世紀型スキルへ対応した教育を推進している。
- (3)地域連携を強化し、「求め、愛され、選ばれる」短期大学として取り組んでいる。
- (4)入学者数が増加し、定員確保に向けた取り組みを進めている。
- (5) 学内業務がスリム化し、施設設備の改善が図られている。

(1)授業改善が図られ教育の質が向上し、ゆとりと充実をめざす短期大学になっている。	個別ビジョン  ①ゆとりと充実を生む教育課程の改善(科目間連携、集中講義の活用、時間割の検討)を図る。 ②授業におけるICT活用に向けたFD研修を推進する。
(2)ICTを活用し、21世紀型 スキルへ対応した教育を推 進している。	①2年間で学ぶICTのスキルを明確化し、その教育を確立する。 ②保育現場で活用できる実践事例を構築していく。(実践事例集等の発行)
(3)地域連携を強化し、「求め、愛され、選ばれる」短期大学として取り組んでいる。	①Iwatan親子フェスタ、親子広場等の子育て支援事業を継承・発展させていく。 ②学生ボランティアの推奨に努める。
(4)入学者数が増加し、定員 確保に向けた取り組みを進 めている。	①魅力あるオープンキャンパスを実施する。 ②本学独自の奨学金制度の拡充に努める。 ③中・高大連携授業の推進を図る。 ④高水中・高等学校との連携をさらに推進する。
(5)学内業務がスリム化し、施設設備の改善が図られている。	①会議(教授会、科会、事務協議会等)のペーパーレス化を図る。 ②施設のバリアフリー化に努める。

## 3. 高水高等学校 · 同付属中学校

	1/2	200	1644	332	881
/ EXE	1000 breet	ere ale	12.21	2.30	ae:
83.4±±	1000		3 200		MH

#### 徳性の陶冶

## ミッション

- (1) 建学精神を教育の根幹に据え、校訓「師弟親愛・堅実明朗・勤労実践」の方針に従い、知・徳・体のバランスのとれた力=「生きる力」を養い、いかなる時代・社会においても活躍できる人物を育成する。
- (2) グローバル社会と多様性社会の到来を前提に、自ら課題を見付け、その課題の解決に向けて、自ら学び、自ら考え、判断し行動できる人物を育成する。

## ビジョン(6年後の目指す姿)

- (1) 基礎学力と礼儀マナーを身に付けてもらえる学校との世評が高まっている。
- (2) 学習活動や特別活動、部活動、さらにユネスコスクール等の校外活動、各々の分野で活躍する多様な生徒で活気を帯びている。
- (3)歴史と伝統を受け継ぎ、生徒、保護者、地域社会から愛され信頼されている。
- (4) 定員確保に努め、経営基盤の確立に向けた取り組みを着実に進めている。

(4) 定員確保に努め、経営基盤の確立に向けた取り組みを着実に進めている。					
	ビジョン達成のための重点目標				
ビジョン	重点目標				
(1) 基礎学力と礼儀マナーを					
しっかりと身に付けてもら	通科で到達目標を設定し、各教科でそれを実現するための				
える学校との世評が高まっ	具体的な目標値を設け、その達成に向け全力を傾ける。				
ている。	・挨拶、清掃、ボランティア活動等、本校の伝統である実				
	践的な教育活動を展開し、生徒の自己肯定感を高め、規範				
	意識を向上させる。				
	・ 高校普通科と中高6カ年一貫教育とで、それぞれその特				
活動、さらにユネスコスクー	徴を最大限生かせる教育課程を編成し、ICTの活用による				
ル等の校外活動、各々の分野					
で活躍する多様な生徒で活	・生徒会活動を軸に学校行事を盛り上げ、学級会活動の活				
気を帯びている。	性化も図る。				
	・部活動の対外的な活躍を評価し、生徒のモチベーション				
	を高め、校内の雰囲気を明るくする。				
	・ユネスコスクール等の校外活動を通じて生徒の視野を広				
	げ、経験値を高めることによって、課題発見の機会を増や				
	していく。				
	・海外姉妹校との交流を活性化し、異文化や多様性につい				
	て生徒が身近に感じられる環境作りに取り組む。				
(3) 高水村塾からの歴史と伝	・施設や設備の改修と充実を進め、本校教育の実績等を通				
統を引き継ぎ、生徒、保護	して、本校の校風と魅力を高める。				
者、地域社会から愛され信	・地域との連携をより深め、地域社会から信頼される学校				
頼されている。	づくりに努める。				
(4)定員確保に努め、経営基	・地域社会や保護者の要望や期待に即した広報活動を展開				
盤の確立に向けた取り組み	する。				
を着実に進めている。	・本校と競合する他校の情報を収集し、受験日程や受験方				
	法を更新しながら、受験生の増加に努める。				
	・本校の魅力と強みを教職員全員が共有し、熱意をもって				
	アピールできるようにする。				

	2011	現在↓	D. I =	05 + =	D6 #= #3 13	単位:干
項目	R2決算	R3見込	R4年見込	R5年見込	R6年見込	R7年見込
学生生徒等納付金収入 授業料等収入(入学金収入以外の全て)	395, 442 359, 062	424, 042 380, 192	404, 200 364, 200	408, 200 367, 800	412, 200 371, 400	416, 30 375, 10
大学金収入 (大学金収入以外の金で)	36, 380	43, 850	40, 000	40, 400	40, 800	41, 20
大子並収入 手数料収入	19, 191	21, 413	20, 103	26,000	26,000	26, 00
寄付金収入	5, 026	8, 450	5, 850	19,000	19,000	19, 00
特別寄付金収入	1, 030	1, 600	750	2,000	2,000	2, 00
一般寄付金収入	3, 996	6, 850	5, 100	17, 000	17, 000	17, 00
補助金収入	304, 276	233, 019	256, 046	295, 000	294, 000	294, 00
国庫補助金収入	93, 858	28, 772	51, 772	45, 000	44, 000	44, 00
日本私立学校振興・共済事業団補助金収入	93, 858	28, 772	51, 772	45,000	44, 000	44, 00
その他国庫補助金収入						
地方公共団体補助金収入	210, 418	204, 247	204, 274	250, 000	250, 000	250, 00
日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金収入	0	0	0	0	0	
資産売却収入	0	0	0	0	0	
施設売却収入	0	0	0	0	0	
設備売却収入	0	0	0	0	0	
有価証券売却収入	0	0	0	0	0	
その他資産売却収入	0	0		28, 000	28, 000	28, 00
付随事業・収益事業収入	17, 790	19, 655 2, 300	17, 454 2, 300	2,750	3, 250	3, 2
受取利息・配当金収入	2, 358 49, 187	64, 630	1, 997	42, 700	58, 500	91, 0
雑収入 お 世間 は 日曜	47, 572	62, 500	1, 997	39, 700	55, 500	88, 0
私学退職金団体交付金収入 その他の雑収入	1, 615	2, 130	1, 997	3, 000	3, 000	3, 0
借入金等収入	0	2, 100	0	0	0	
長期借入金収入	0	0	0	0	0	
短期借入金収入	0	0	0	0	0	
学校債収入	0	0	0	0	0	
前受金収入	37, 663	48, 470	49, 350	50,000	50, 000	50, 0
その他の収入	164, 543	122, 579	78, 230	21, 300	67, 700	83, 5
第2号基本金引当特定資産取崩収入	0\	0	0	0	0	
第3号基本金引当特定資產取崩収入	0	0	0	0	0	
退職給与引当特定資産取崩収入	22, 299	6, 900	7, 230	500	3, 000	3, 0
施設設備引当特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	
減価償却引当特定資産取崩収入	8, 000	5, 000	5, 000	10, 000	10, 000	10, 0
その他引当特定資産取崩収入	10,000	10,000	0	0	0	
前期末未収入金収入	124, 244	/注 100, 679	66, 000	10, 800	54, 700	70, 5
その他収入	0	A 0	0	0	0	
資金収入調整勘定	-149, 626	-103, 663	-59, 270	-104, 050	-120, 500	-153, 0
期末未収入金	-103, 731	-66, 000	-10, 800	-54, 700	-70, 500	-103, 0
前期末前受金	-45, 895	+ -37, 663	-48, 470	-49, 350	-50, 000	-50, 0
その他の収入調整勘定	0	0 005	776, 260	788, 900	838, 150	858, 0
収入の部小計(A)	845, 850	840, 895	326, 690	213, 187	168, 287	135, 3
前年度繰越支払資金	418, 929 1, 262, 779	1, 203, 163	1, 102, 950	1, 002, 087	1, 006, 437	993, 3
収入の部合計 人件費支出	631, 110	674, 900	610, 547	678, 200	692, 920	725, 4
★ 教員人件費支出	484, 593	502, 700	491, 105	541, 500	540, 500	540, 5
職員人件費支出	88, 130	98, 700	101, 142	87, 000	86, 920	86, 9
役員報酬支出	10, 314	11,000	11, 000	10,000	10,000	10, 0
退職金支出	48, 073	62, 500	7, 300	39, 700	55, 500	88, 0
その他の人件費支出	0	0	0	0	0	
教育研究経費支出	142, 805	133, 401	139, 229	120,000	120,000	120,0
管理経費支出	28, 938	29, 435	30, 383	28, 000	28,000	28, 0
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	2.7.4			
借入金返済支出	0	0	0	0	0	
学校債返済支出	0	0	0	0	0	
<b>施設関係支出</b>	4, 235	2,000	16, 000	10,000	10,000	10,0
<b>设備関係支出</b>	7, 702	8, 951	7, 404	5, 000	5, 000	5, (
資産運用支出	26, 221	5, 000	500	500	500	
有価証券購入支出	0	0	0	0	0	
第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0	
第3号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0	
退職給与引当特定資産繰入支出	26, 221	5, 000	500	500	500	Ę
施設設備引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0	
滅価償却引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0	
その他引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0	
その他資産運用支出	115, 309	85, 286	93, 000	37, 800	76, 200	92, 0
その他の支出 手形債務支払支出	115, 309	85, 286	93,000	37,800	76, 200	32, (
	114, 808	<b>54</b> , 786	62, 500	7, 300	45, 700	61, 5
前期末未払金支払支出	114, 808	54, 786	02, 500	7,300	45, 700	01, 0
前払金支払支出 その他支払支出(目込年度は予備費を加賃)	501	30, 500	30, 500	30, 500	30, 500	30, 5
その他支払支出(見込年度は予備費を加算) 6会支出調整勘定	-55, 809	-62, 500	-7, 300	-45, 700	-61, 500	-94, 0
資金支出調整勘定 期末未払金	-54, 786	-62, 500	-7, 300	-45, 700	-61, 500	-94, C
前期末前払金	-1, 023	-62, 500	-7, 300	-45, 700	-01, 300	04, 0
<u>削期未削払金</u> その他支出調整勘定	-1, 023	0	0	0	0	
支出の部小計(B)	900, 511	876, 473	889, 763	833, 800	871, 120	886, 9
受印の部外4T(B) 翌年度繰越支払資金	362, 268	326, 690	213, 187	168, 287	135, 317	106, 4
	302, 200	020,000				
支出の部合計	1, 262, 779	1, 203, 163	1, 102, 950	1, 002, 087	1, 006, 437	993, 3